

① 下の記事にはエディーさんが本に書いたことや、エディーさんの言葉がたくさん入っています。印象に残ったところを書き出し、なぜ印象に残ったのかをまとめましょう。

昨年ラグビーW杯の南アフリカ戦。田中史朗選手（手前）は身長166センチだが、自らの特長の素早さを生かして世界の舞台上で活躍する（共同）



# 自分のやり方で突き進め!

「強くなりたいきみへ!」を出版したエディーさん

ラグビー史上最大のジャイアントキリング（大番狂わせ）ともいわれた南アフリカ戦など、昨年のワールドカップ（W杯）で日本代表を指揮したエディー・ジョーンズさん（顔写真）が、子ども向けの書籍「強くなりたいきみへ!」（講談社）を出版した。そこには子育てのヒントも詰まっている。来日した折に話を聞いた。

## 目標見つけ挑戦を

### 子育てのヒントぎっしり



オーストラリア人の父と日系米国の人の母の間にオーストラリアのスマニア島で生まれ、ドニーで育った。子どもの頃は日系人への差別や偏見にも苦しんだが、誰にも負けたくないと大好きなラグビーや勉強を精いっぱい頑張った。支えになったのが父の言葉「ゴー、ゆっくり」だ。

「日本語と英語が交じった変な言葉だけど『じっくり考えて何をすべきか整理してから、やるべきことをやれ』という意味。私にとって、大切な言葉なんだ」

学校や塾、習い事。忙しい日本の子どもたちに「慌てなくていい。いろんな経験の中から『これだ』と思うものを見つけて。そうしたら、あとは進むだけ。間違いに気付いたら、やり直せばOKだ」と助言する。

失敗からも学べる。自身もオーストラリア代表になる目標では挫折したが、その経験がコーチになっても役立った

「成功より、間違方向へ行かないよう手助けすること。大人の決まりが子どもの夢を壊すことは禁物と考える。心が壊れれば、やる気を失う。逆に自分で選んだ道であれば、責任を持って頑張るはずだ」

ラグビー選手たちの指導を通じて、日本の子どもたちのスポーツ環境に疑問も感じた。放課後に毎日何時間も、言われるがまま同じような練習を繰り返す。あまり楽しくないのではないかと。自分のどういった特性を伸ばせばよいか考えながら、自分なりの鍛え方を見いだすこと。そうすれば成長が感じられ、楽しいものだよ」

人生で一番大切なのは「挑戦を続けること」と訴える。そして日本の子どもたちに、こんなメッセージを送る。「フラインド・ユア・ウエイ（自分のやり方を見つけて進め）。やるべきことを自分で考えれば、どんなことにも恐れずに立ち向かえるはずだよ」

「日本語と英語が交じった変な言葉だけど『じっくり考えて何をすべきか整理してから、やるべきことをやれ』という意味。私にとって、大切な言葉なんだ」

学校や塾、習い事。忙しい日本の子どもたちに「慌てなくていい。いろんな経験の中から『これだ』と思うものを見つけて。そうしたら、あとは進むだけ。間違いに気付いたら、やり直せばOKだ」と助言する。

失敗からも学べる。自身もオーストラリア代表になる目標では挫折したが、その経験がコーチになっても役立った



ラグビー日本代表を指揮したエディーさんが子どもたちにメッセージ